

＼岡山市発／

協働で社会をよくする仕組み、紹介マガジン

協働 通信

Vol.6 2020年.12月

- 市民協働推進モデル事業・ニーズ調査事業
- 区づくり推進事業の取組
- SDGsの達成に向けてーSDGs未来都市推進事業ー



市民協働推進モデル事業

・ ニーズ調査事業

平成28年度に改正された「協働のまちづくり条例」に基づき策定された「協働推進計画(5ヶ年)」は、令和2年度で最終年度を迎えます。

岡山市と市民活動団体等との協働により効果的に課題解決を進める事業を公募・実施する「市民協働推進モデル事業」は令和3年度から「市民協働推進事業」と改称します。協働推進計画の5ヶ年(平成28年度～令和2年度)の間に取り組みされた協働事業について振り返ります。

協働事業の成果

種類	内容	事業数
モデル事業	市民と岡山市の協働により効果的に市の課題解決がすすむ事業を募集し、実施する制度です。	22
ニーズ調査事業	岡山市における課題解決の必要性や緊急性、具体的な現状などを把握し、分析する事業です。	10

モデル事業実施後

一般施策化	11
団体の自主事業として継続	4
その他	2
令和2年度モデル事業実施中	5

一般施策化した事業(一部)

- ・ 小児慢性特定疾病児童等自立支援事業
- ・ 岡山市里親制度等普及促進事業
- ・ 地域猫活動支援事業

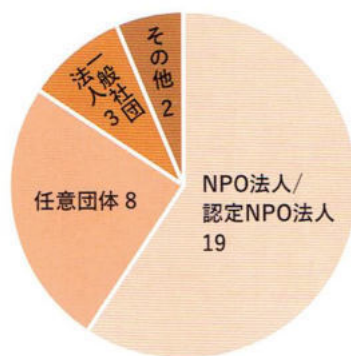
協働事業の担い手

	実施団体/担当部局	モデル	ニーズ
実施団体	NPO法人	14	5
	任意団体	4	4
	一般社団法人	2	1
	その他	2	0
担当部局	岡山っ子育成局	8	2
	保健福祉局	7	2
	教育委員会事務局	6	1
	都市整備局	5	4
	市民協働局	2	1
	その他	3	0

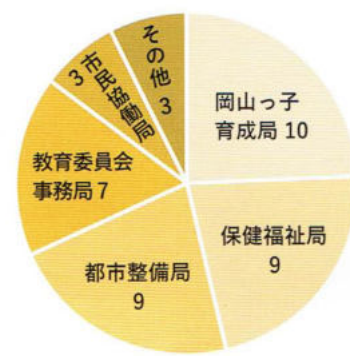
実施団体はNPO法人が多いですが、法人格を持たない任意団体、一般社団法人など延べ32団体が協働事業に取り組みました。

岡山市は、岡山っ子育成局や保健福祉局、都市整備局、教育委員会事務局、市民協働局など延べ41の担当課が協働事業に取り組みました。

※法人格などは事業実施当時



実施団体(延べ数)



担当課(局別、延べ数)

ESD・市民協働推進センターから

ESD・市民協働推進センターでは「協働のまちづくり条例」に掲げられている「協働の基本原則」を意識し、より良い協働事業の運営支援に取り組んでいます。実施団体と担当課のそれぞれと情報交換などを行いながら互いの円滑なコミュニケーションを生み出し、事業目的の共有や目標達成へのプロセスなどを実施団体と担当課と共に検討しています。

モデル事業の実施後は、11事業が一般施策化、4事業が団体の自主事業として継続して取り組まれています。協働による、より効果的な課題解決の取組を推進するために、今後もより良い伴走支援に努めていきます。



◇令和2年度のモデル事業・ニーズ調査事業

5つのモデル事業、1つの
ニーズ調査事業を実施中！

就学前親子の居場所づくり事業

NPO法人岡山市子どもセンター
地域子育て支援課

課題	子育てに不安感や孤立感を抱える人が増えています。ニーズ調査から、児童館や子育て広場等を知っているが利用に至っていない状況が明らかになりました。
取組内容	親子が気軽に集い、親同士の相互交流や相談ができる場、子ども同士が異年齢で遊べる場を、実施内容を協議・検証しながら運営しています。
目標	子育ての不安感や孤立感を解消し、子どもの健やかな育ちを支える望ましい親子の居場所のあり方を共有し、子育て支援の充実を目指しています。



子ども・若者支援ネットワーク事業～高校世代の孤立を防ぎ社会的自立につなげるための支援を考える～

子ども・若者支援ネットワーク
地域子育て支援課、こども福祉課

課題	高校中退など困難を有する子ども・若者をめぐる問題が複雑化し、深刻な問題になっています。年齢により途切れることのないきめ細やかな支援が必要です。
取組内容	困難を有する子ども・若者の支援を官民協働で充実させるための仕組みづくりに、実際のケースの支援を実施しながら取り組んでいます。
目標	困難を有する子ども・若者が、官民間問わずニーズに応じた適切な支援を受けることにより、社会的自立に向かうための仕組みを構築します。



シングルマザーの経済的自立に向けた資格取得・就労支援事業「結」

NPO法人オカヤマビューティサミット
こども福祉課

課題	働きながら子育てをするシングルマザーのうち約半数は非正規雇用者で、手に職を付けるための資格取得にもハードルがあり、経済的自立が困難な状況です。
取組内容	現在の仕事を続けながら、エステティック等の資格取得のための講習プログラムおよび就労支援を実施して、受講者の経済的自立を促しています。
目標	子ども世代への貧困の連鎖を断ち切るため、シングルマザーの経済的自立を図る仕組みの構築を目指しています。



貧困家庭の抱える「子どもの体験不足」の解消に向けた連携・支援ネットワーク構築事業

NPO法人チャリティーサンタ
こども福祉課

課題	ニーズ調査から、ひとり親家庭はイベント等への参加にハードルを感じているなど、自己肯定感を育む体験活動の機会が不足していることが明らかになりました。
取組内容	子どもの体験不足を解消し自己肯定感を育むための体験プログラムを、企業等と協働で実施するほか、希望する家庭に体験活動の情報を提供しています。
目標	体験プログラムなどの提供について企業や団体等によるネットワークを構築し、貧困家庭の孤立を防ぎ、自己肯定感を育むことにつなげます。



生活困窮など困難を抱える学童期の子どもの学習習慣の定着を図るためのICTを活用した学習サポート事業

NPO法人あかね
生活保護・自立支援課、こども福祉課

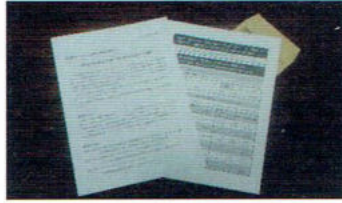
課題	生活困窮世帯の子どもは学習習慣が身につけづらい傾向にあり、勉強がわからなくなり不登校になったり、進学や将来の選択肢が狭まる状況にあります。
取組内容	学童期の学習支援のニーズを把握すると共に、ICT教材を活用した学習支援(来所型、遠隔型)を実施し、対象者の学習習慣の定着を図っています。
目標	生活困窮などの事情で学習の機会が奪われることなく、一人ひとりに合ったスタイルで学べる機会を増やすことに取り組みます。



認知症の本人・家族の支援ニーズ調査事業

一般社団法人はるそら
高齢者福祉課

課題	住み慣れた地域で希望や生きがいを持って普通に暮らせる地域にするために、まずは認知症の本人や家族のニーズを明らかにすることが必要です。
調査	認知症と診断された本人及び家族を対象に、診断直後に生じる心理面・生活面での支援ニーズを明らかにすることを目的に、調査を実施しています。
目標	認知症の本人や家族のニーズに沿った支援のあり方を検討し、地域での理解促進を図るなど、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指します。



区づくり推進事業の取組

区づくり推進事業【地域活動部門】は、町内会などの地域住民組織をはじめ、NPO法人やボランティア団体、学校・企業等の多様な組織が主体となって協働し、より暮らしやすい地域を実現するための継続的な取組を支援する制度です。

令和2年度の地域活動部門では、12事業（北区：4事業、中区：4事業、東区：3事業、南区：1事業）が行われています。

実施団体は、持続可能な地域づくりに向けて、地域の多くの住民や事業者などと共に課題解決の活動に取り組んでいます。このような活動を通じて地域の課題解決力が育まれています。

今回はそうした事業の中から、3つの事業について活動内容などを紹介します。

つながる協働ひろばで、区づくり推進事業【地域活動部門】の事業を紹介しています。



石井十次に学ぶ会 ～石井十次に学ぶ会～

東区

平成31年度開始

「地域課題の掘り起し」の取組

活動の目的

東区大宮学区は、岡山孤児院を創設した石井十次ゆかりの地です。この地域でも、少子高齢化により人口減少が進み、現代社会の課題「他人への関心の薄まり」という側面も相まって地域の活力が弱まり、行事の遂行もままならない状況です。石井十次が残した福祉の精神を学び、広めることにより、地域の人々同士が関心をもち互いに支え合う心を醸成することで、地域の活力の向上を目指します。

活動紹介

石井十次の功績とその精神を学ぶため、講演会の開催や「十次通信」(年4回発行)等の配布、紙芝居の上演などを行っています。また、十次ゆかりの上阿知大師堂では、建物の保全やお接待(参拝者におもてなしを行う活動)にも取り組んでいます。

地元の大宮小学校では、学ぶ会と協働し、生徒が保全活動とお接待を体験する機会を設け、十次の精神を学ぶと共に地域の人々との交流を図っています。上阿知大師堂で一人の男児を預かったことから十次の活動が始まったように、この場所から地域の人々と子ども達との交流が生まれています。



【協働する団体等】

大宮学区連合町内会、岡山学芸館高等学校、高松機械株式会社、株式会社日本資源開発者、(社福)センチュリー岡山阿知の里、大宮学区コミュニティ協議会、大宮安全・安心ネットワーク、大宮小学校、大宮小学校PTA

竜之口学区防災マップ作成

～竜之口学区防災マップ作成実行委員会～

中区

平成30年度開始

「地域課題解決」の取組

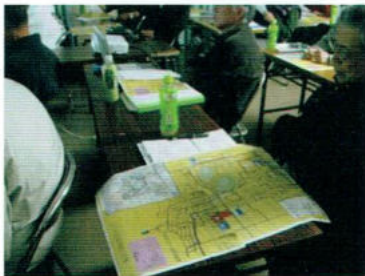
活動の目的

竜之口学区は、自然災害が少ないことから住民の災害への意識が低く、防災活動への取組が十分には行われていませんでした。災害時に避難行動を迅速に行い、避難場所まで安全に移動できるように、個人・地域・行政が情報共有しやすい仕組みとして「防災マップ」を作成しています。作成の過程で行われる危険箇所の確認や情報交換などを通して、地域全体の防災意識の向上を目指します。

活動紹介

岡山市の最新のハザードマップと平成30年の水害時の被害状況を踏まえ、地域の危険箇所や避難場所などの最新情報を盛り込んだ防災マップを作成し、その活用と情報の更新を行っています。

クリニックや福祉施設など、地域内の事業所にも一時避難場所として協力体制の依頼を行っています。マップを携帯サイズにすることで、避難訓練時に限らず町内の会議の時などにも気軽に持参して図上防災訓練に活用しています。竜之口小学校では全生徒がカバンに入れており、防災教育にも役立てられています。



【協働する団体等】

東公民館、ながけクリニック、コート一電器、両備ストア、東岡山自動車教習所、四御神郵便局、竜之口小学校、竜操中学校、県立東岡山工業高校、県立聾学校、竜操消防署、高島交番

「産地牟佐」にこだわった地域活性化

～牟佐町内会～

北区

平成29年度開始

「地域課題解決」の取組

活動の目的

「産地牟佐」の活動を通して豊かな自然資源や歴史遺産を学び、資源を活用した特産品づくりなどでふれあう機会を設け、地域住民が顔を合わせる場をつくることで、人と人とのつながりを深めています。子どもから大人まですべての世代が地域資源を中心に集い活動することで、牟佐地域ならではの魅力に多くの方が自ら気づき、次世代に伝えられるような地域づくり・人づくりを目指します。

活動紹介

牟佐地域の魅力を伝えるため、子どもたちと共に史跡巡りやレザークラフト体験をする「牟佐っ子子ども教室」、地元産皮革を製造・加工する「産地牟佐塾」などの活動を行っています。見るだけ・聞くだけに留まらず、歩く・食べる・つくるを体験できることが「産地牟佐」の特徴です。

「産地牟佐」の活動には、史跡を巡り解説する地元歴史家、イノシシ駆除のための猟師をはじめ製造・加工を行う人々、地元で採れた川ガニや蜂蜜、ジビエを活用した料理をつくる婦人部、それらを販売したり振る舞う場づくりに協力する団体など、地域の多くの人に関わっています。



【協働する団体等】

町内の猟友会駆除班、川漁師、MATAGIプロジェクト、岡山県セルフセンターOB、牟佐町内会子供会育成会、JA女性部(牟佐)、岡山刑務所、牟佐区(農家組織)、牟佐町内ボランティア、株式会社アーチファーム

SDGsの達成に向けて

—岡山市SDGs未来都市推進事業—

◇SDGs未来都市とは？

「SDGs未来都市」とは、SDGsの達成に向けて優れた取組を行う自治体を公募し、内閣府が選定するものです。

岡山市は、新たなマーケットやビジネスモデルの創出、健康寿命の延伸と社会保障費の抑制、ESDを活用した市民活動の活性化・市民の活躍の場の創出に関する取組を提案し、2018年6月15日に「SDGs未来都市」に選ばれました。



これを受け、岡山市ではSDGs未来都市計画を策定し「誰もが健康で学び合い、生涯活躍するまちおかやまの推進」をテーマに、健康寿命の延伸などを目指す「健康」を軸にした重点事業を実施、岡山市SDGs推進本部の設置、各種基本計画へのSDGsの反映を行うほか、都市間連携・産学官連携、普及・啓発事業に取り組んでいます。

SDGs・ESD推進課では、普及・啓発事業として、市民への啓発イベントおよび学び合うフォーラムを開催しています。市民への啓発イベントは多くの人が行き交う岡山市中心部の大型商業施設で実施しており、SDGsを身近なものとして捉え行動する市民の増加に努めています。

SDGsとは？

「SDGs」は「Sustainable Development Goals」の略で、「持続可能な開発目標」と訳されます。2015年9月の国連サミットで全会一致で採択されたもので、2016年から2030年までに達成することを目指す国際的な目標です。社会・経済・環境に関する、以下の図に示された17の目標と169のターゲットが定められています。

開発途上国も先進国も、世界中のすべての国が取り組むもので、地球上の「誰一人取り残さない」ことが大きなテーマです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



17の目標の達成に向けて世界中でさまざまな取組が行われています。「誰一人取り残さない」ことを誓っています。



◇未来わくわくSDGsフェスタ ～お買いものからはじめよう！～

SDGs未来都市推進事業として、岡山市域全体でSDGsへの理解を深めていくために、大型商業施設で「身近な買いものと持続可能な社会づくり」をテーマに「未来わくわくSDGsフェスタ～お買いものからはじめよう！～」が2020年8月20日～21日の2日間にわたり開催されました。

日々の暮らしとSDGsの関わりについて、新たな気づきを得て実践的な取組につなげることが目的です。



会場では、ステージイベントの他、地球や人にやさしい商品について楽しみながら学べるお買いものクイズラリー、持続可能な商品の展示、西川に生息する淡水魚を展示したミニ水族館などが行われました。

ステージでは、岡山市出身タレントの藤原しおりさんによるSDGsトークショー「わくわくする未来へ！」や、環境学習センターアスエコの山田哲弘さんによる「てっちゃん先生のいきもの教室」、高校生によるSDGsの取組発表など、子どもから大人まで楽しめる様々な企画が催されました。

小学校の社会科の授業をきっかけに環境問題に関心を持ち、裏紙でメモ帳をつくっていたという藤原さんは「無理のない範囲でエコバックを使ったり、環境にやさしい洗剤を選ぶなど、できることから気を付けている」と、日常の中で無理せず続けられる取組が大切であることを話されました。

イベントを通じて、買いもの時の商品選びなど、日常生活の中で一人ひとりが無理なくできる小さな取組を重ねていくことが、SDGsの17目標の達成に大切であることに改めて気づかされました。

SDGsに関心を持って取り組むことに、分野や年齢は関係ありません。自分の関心のあること、できることから、持続可能な社会づくりを始めてみませんか？



おかやまESDナビ

<http://www.okayama-tbox.jp/esd/>

岡山の身近なところにあるESDやSDGsについて、様々な情報を広くお届けするサイトです。イベント等の情報、ボランティア募集情報、岡山市の取組、ESDに取り組まれている方々のコラムなどを掲載しています。岡山でESD活動をしている方や関心がある方、ぜひご覧ください！



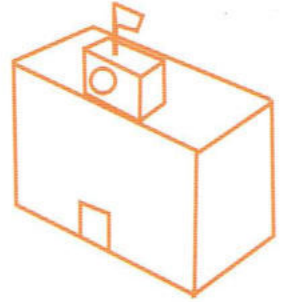
ESD・市民協働推進センター

ESD・市民協働推進センターは「協働を推進するためのコーディネート機関」です。人材育成、情報共有および交流機会の創出、社会課題解決のための取組の推進などを担います。

相談
提案

情報
収集

事業
参加

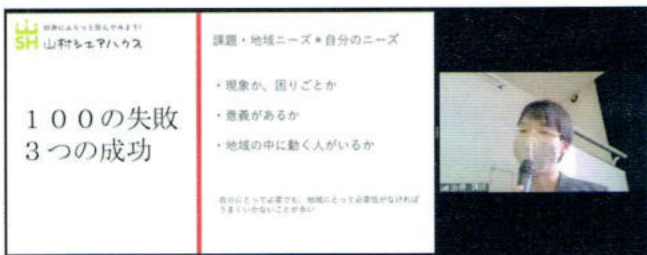


令和2年度 市民活動リーダー養成講座

「共感の視点で考える、地域の活動における資金調達講座」を開催しました。

10月7日、勤労者福祉センターおよびオンライン配信で「共感の視点で考える、地域の活動における資金調達講座」を開催しました。会場とオンラインを併せて、合計56名の方にご参加いただきました。

(公財)みんなで作る財団おかやま専務理事の石田篤史さんから、地域で活動するための資金調達に関する基礎知識を、同じく理事の藤井裕也さんからは、地域で多くの人を巻き込みながら活動するポイントを事例を交えて教えていただきました。県内の助成団体から、各助成制度を紹介いただく時間も設け、希望者には各団体との個別相談を実施しました。



「これからの地域の活動に多くのヒントが得られた」「助成金を出す側にも思いがあるということは新しい付きだった」などのコメントをいただきました。

資金調達を通じて活動に共感する人を増やし、多くの人を巻き込むことは、課題解決に向けた地域での取り組みにとって重要であることを改めて学ぶことができた講座となりました。

「市民協働フォーラム～岡山市の協働、これまでとこれから～」を開催しました。

令和2年度は、協働のまちづくり条例に基づいて策定された5ヶ年の「協働推進計画」の最終年度です。5年間の取組について、総括・評価の共有と新たな計画策定に向けた意見交換を目的とした市民協働フォーラムを8月31日に開催しました。

コロナ禍で開催が心配されましたが、この計画は、市民の皆様が議論して策定された経緯があり、今回も感染防止対策に努めてワークショップを実施しました。町内会、NPO法人、企業、学校、行政など、さまざまな所属の26名にご参加いただき、活発な議論を交わしました。



参加者の積極的な姿勢と協働推進委員のサポートで熱のこもった協議が行われ、多くの意見、提案が寄せられました。特に、数字にはあらわれないエピソードや市民の皆様の満足度を確認できたことは有意義でした。

今後新たに策定する「協働推進計画」についても、みなさまに関心をお寄せいただきたいと思います。

発行・問合せ：ESD・市民協働推進センター

岡山市北区大供一丁目1番1号 岡山市役所2階 市民協働企画総務課内

TEL : 086-803-1062 / 070-5055-7589

E-mail : esd-smc@googlegroups.com

最新情報は
「つながる協働ひろば」
で検索!

